

光明禪寺

第483号

令和四年十二月

現在に活きる

仏の教え

電話 1P
2214127
(2回線)
4191090
79819123

FAX 2413519

(県・市文化財指定安置所)
〒八九一〇四二 指宿市十町南迫田二七六八

過去を忘れてしまえば、自分が受

かります。自分を交えれば、

過去は忘れられます。

燃料を節約して炎を静かに燃
やすようなら、人生は意味がないも
のになる。

一人がかんばってると思う自分は、決
して一人ではないのだ。

お前がどれだけ頑張ったとしても、
上には上がいる。でも、そこで下を見て、
満足するような人間にはなるな。

十二月の行事

一 晓天竺禅会

初一日曜(四日) 朝六時
初三日曜(十八日)

一 釋迦如来御成道報恩会

八日 二時

一 地藏尊・水子供養

年中行事・納め法要

二十四日 二時

一 除夜法要 三十一日夜 11時20分〜

除夜の鐘 45分よりどなたでも御自由に!!

「寄附単」お知らせ

山川地区の 山本次郎様が、納骨堂の方へ 奥様の供養と思ひ、牛押車付、花水かえの「たなつき、補助のカッター車付」を寄附して下さいます。一階の方においてあります。皆様方大切に御自由にお使い下さいませ。お知らせ致します。

横浜にお住まいの 徳永 盛雄様 (故キミエ様) の長男の方です。護持会費を納入して下さい。檀家に入檀して頂きます。お知らせ致します。

成道会にちなんで お釈迦さまは、どうして出家をしてお坊さんになったの

どこのおうちでも、お父さんと、お母さんがいて、子供がいて、おじいちゃんやおばあちゃんもいて、仲よくくらしているなら、幸せですね。そういう生活をするため、お父さんはおつとめにでかけて月給をもらってきたり、あるいは、商売でお金をもうけたり、お百姓さんなら、田や畑にでて働いたりして生活をまもりますね。そういう生活というのを「あたりまえな生活」といっていいでしょうね。そうすることが、人間としてあたりまえですかねえ。ところが、そういうことがなぜあたりまえなのかを明らかにしたいという願ひも一方であります。そこが人間のふしぎなところなのです。イヌやネコだったら問題にならぬことが、人間には問題になるのです。それで、そういうあたりまえなことが、なぜあたりまえなのかを明らかにする

ため、「出家」ということがあるのです。
お釈迦さまの場合は、東の門からでて
みたら、病人と出会ったのです。南の門か
ら外へでたら、よぼよぼの老人と出会ったの
です。西の門からでてみたら、人が死んでい
たのです。北の門からでてみたら、出家修
行者と出会ったのです。それで、すっ
かり考えこんでしまったのです。それ
で、人間にはなぜ、老とか病とか死とかが
あるのか、明らかにしようと思って、出家
してお坊さんになってしまったのです。
お釈迦さまは、王さまの息子で、ほん
とえば王さまになる人だったのです。
・お釈迦さまは、なだを食べてたの。
お釈迦さまの食事はだれがつくってたの
お坊さんは、自分でものをつくらない人
たちだから、決して、新しい着物は着

ないということ。食べものは、人が食べ
て残ったものもただいて食べるという
ことを、徹底的にまもったのです。
今でも、ビルマや、タイのお坊さんは、
朝の勤行が終わると、お経を唱え
ながら、鉄鉢を持って托鉢します。
その中には、ほんとうは生産者が食べ
て、あまったものを入れることになっ
て、あまったものを食べるようになって
いるのですが、今では、自分が食べる前
に供養します。つまり、お坊さんは
自分で料理するということばないのです。
なかったのです。それで、鉄鉢に入れて
いただいたものは、お魚だろうが、お肉
だろうが、なんでも、いただくし、拒否は
してはいけない、というのがきまりだったの
です。けれども
①生きものが、お坊さんに供養するた
めに殺された場合、それを自分が直

接見た場合は拒否する。

②お坊さんに食べさせるため、生きものの殺されたということを信ずべき人から聞いたときは拒否する。

③さまざまな状況から判断して、お坊さんに供養するため殺されたのではないかと疑うことが出来る場合。

以上の三つの場合は、肉を食べてはならないというものです。

いかなる場合でも、人間は、いのちをいただいて生かしてもらっているのだという考え方が根本です。それは、お肉を食べようか、お米を食べようか、麦を食べようか、みんないのちのちのあるものだからです。

だから食べすぎではいけないのです。

食べすぎるといふことは、生きもののいのちを、よけい殺すということなのです。

そう考えてみると、お釈迦さまが、村の娘さんから乳がゆをいただいたというのは、たいへん大事なことです。なぜなら、ちちは、生命そのものではなくて、いのちを養うための食べ物としてつくられた唯一のものだからです。

・お釈迦さまは、今から二千五、六百年ほども前に、インドのカピラ城（今のネパール領内で、インドとの国境近く）の王子さまとして生まれました。お釈迦さまというのは、シャキヤ族の尊者ということで、釈尊とこのことです。子どもどもの名まえは、ゴータマとこのことです。結婚もして、子どももいます。だから、シャキヤ族の国、カピラ城の跡継ぎになって、王さまになるはずだったのです。二十九歳のとき、出家しました。